

大学生に於けるふるさと納税の利用率向上に関する一考察

－寄付行為に於けるスピリチュアリティの側面から－

1230406 石田佳恋

指導教員 坂本泰祥

研究背景

現在、ふるさと納税の受入額は増加傾向にある。しかしながら、(安田等 2016) では大学生のふるさと納税の利用率は低いことが報告されている。一方で、(渡邊等 2022) では大学生のボランティア活動の参加率は高いことが報告されている。

研究目的

そこで本研究では、寄付行為という観点から大学生のふるさと納税の利用率の低さについて原因を明らかにすることを目的とする。

調査・分析方法

先行研究として、(末松 2020) や (深澤 2019) ではふるさと納税の返礼率、(重沢等 2020) では返礼品が与える域内経済効果といった経済的な条件から研究を行っていた。しかし、それに対して本研究では、ふるさと納税を寄付行為として捉えることで、上述のようにボランティア活動の参加率に比してふるさと納税の利用率は低いことが分かる。そこで本研究では、(丸山 2021) に基づいてフィランソロピストのスピリチュアリティの側面から寄付行為を捉える。その基、ふるさと納税やボランティア活動に関して大学生を対象にアンケート調査を実施する。

調査結果

アンケート調査を行った結果、(安田等 2016) や (渡邊等 2022) と同様に大学生のふるさと納税の利用率に比べ、ボランティア活動の参加率は高かった。また、ほとんどの大学生は生活の中で大事にしている考えとして倫理観・宗教心・利他の精神を持っていた。さらに、ふるさと納税よりボランティア活動の方が多くの大学生に於いてそれぞれが持つ大事にしている考えに沿っていた。

考察・結論

以上の調査より、大学生とフィランソロピストには寄付内容という点で大きな差がある一方で、フィランソロピストと大学生は各人が持つ倫理観や宗教心、利他の精神を基に寄付行為を行っているという寄付行為に於ける背景的な部分で共通していると考えられる。そのため、フィランソロピストと大学生は寄付行為を行う際、寄付金が彼ら自身の持つ倫理観や宗教心、利他の精神に沿った目的に使われているのかを事業内容を参考にして確認したいと考えられる。実際に、柳井正やビル・ゲイツ、ウォーレン・バフェットらが寄付を行っている財団は事業内容を公表している。そのため、同様の背景を持つ大学生も公表内容が重要になっていると考えられる。しかし、ふるさと納税において事業内容を公表している自治体が多い中、事業内容を参考にして寄付行為を決定している大学生に於いてふるさと納税の利用率は低いという現象が生じている。この現象について「大学生に事業内容が伝わっていない」や「大学生が事業内容に不満を持っている」といった原因が考えられる。以上のような研究を通して、本研究ではふるさと納税を寄付行為として捉え、スピリチュアリティの側面から読み解き、ふるさと納税の利用率がボランティア活動の参加率に比して低い原因を明らかにしたと考えられる。